

「自立した学び手」を育てたい

みなさん、こんにちは。本校では、学校教育目標「自分を育て みんなで伸びる」のもと、めざす子ども像の一つに「自分を理解し、自ら学び続ける子【自立】」を掲げています。言い換えると、本校では、全ての児童に「自立した学び手（学習者）」に育ててほしい、そういう学び手に育てたいと、日々取り組んでいます。

●宮園小のめざす「自立した学び手」とはどのような姿？

例えば、自分から進んで（←これが大切です）…

- ・課題を見つける ・意思決定（自己決定・自己選択）する
- ・課題解決に向けた見通し（計画）を立てる ・計画に基づいて行動する
- ・行動を振り返り、次の行動に生かす ・必要な情報・知識・技能を収集・習得する
- ・課題解決に向け粘り強く取り組む ・他者と協力・協働する
- ・援助希求できる（「(分からないから) 教えて」と言える）

といった姿があげられると思います。これらの姿は、先生に言われた課題を黙々とこなすという姿や決められたことをただひたすらに繰り返すといった姿とは異なる姿と考えています。

●宮園小では、なぜ、「自立した学び手」として育てたいのか？

本校に在籍している子どもたちが社会で活躍することになる 10 年後・20 年後の社会は、人工知能(AI)に代表される先端技術が更に高度化し、社会生活のあらゆる場面に取り入れられるなど、世の中の姿が現在とは劇的に変わるだろうと予測されています。知識や技能をただ再生するだけといった定型的な仕事は人工知能 (AI) にどんどん代替されるだろうというのは、ほぼ確実な未来予測だと思われます。少し前の話になりますが、アメリカの大学教授が発表した「現在の小学生の約 65%は、将来、『現在まだ存在すらしていない仕事』に就くだろう」という研究結果は話題になりました。

そうした世の中では、誰かに言われて単に知識を忠実に再生するだけでは不十分です。「知識や技能を活用し他者と協働して新たな価値を作り出していくこと」、そして、そのための基盤として「学び続ける力」が必要となります。自ら常に知識をアップデートすることが必要になるという言い方もできるかもしれませんが、ちなみに、「新たな価値を作り出していくこと」などと言うと、発明家や〇〇クリエイターにならなければいけないのかと連想される方もいらっしゃるかもしれませんが、そうではありません。例えば、街づくりにおいて、皆で知恵を出し合っって新たな取組を始めるといった姿もズバリ当てはまると思っています。

宮園小では、既に一人1台タブレットを学習に活用しています。このタブレットの導入も、単にタブレットが使えるようになることが目的ではなく、子どもたちを「自立した学び手」に育てるための一つの道具として活用することが真の目的です。まだまだ取組は始まったばかりですが、めざす姿をしっかり意識してこれからも取り組んで参ります。

令和2年10月28日 校長 中谷 一志